



Question

これまで以上にプレッシャーを感じませんでしたか？

平川：ずっと、年間チャンピオンを獲ったら喜び叫ぶのかなと考えていたんですけど、意外と何ともならなかったです(笑)。どちらかというとほっとしたという感じです。キャシディ・普段、僕はクレイジーでうるさいヤツなだけで、今日は亮がゴールラインを越えた時、静かに喜びを感じたよ。彼に「ありがと」と言っただけでしたよ。落ち着いているように見えるかもしれないけど、特別な気分だし、これでもちょっと感動的な気持ちになっただけよ。

Question

年間チャンピオンを獲得した瞬間の気持ちはどうでしたか？

11月11日(土)・12日(日)SUPER GT 2017シリーズ最終戦がツインリンクもてぎ(栃木県)で行われた。この時点で37号車「Keeper TOM'S LC500」は、シリーズランキング1位。ランキング上位3陣営のマシンが逆の順番で予選1、2、3位を占めるという、何が起るか予想のつかない展開となった。37号車「Keeper TOM'S LC500」は予選3位で3番手の決勝スタート。決勝のローリングスタートでの開戦直前に前を走る2台が接触。37号車「Keeper TOM'S LC500」は2位へと浮上。荒れるレースとなる予感をさせながらも、37号車「Keeper TOM'S LC500」は冷静な走りでもって2位をキープし、年間チャンピオンの座を奪った。



Question

初戦と第7戦(タイ)でポールトゥウインを果たしました。特に第7戦は、タイトルが目の前にぐんと近づきましたね。

平川：そうですね。タイの予選で一気に流れが変わったと感じました。キャシディ：僕たちはシーズン中盤のすごい戦や鈴鹿戦でも良いパフォーマンスを持っていただけ、ウエイトハンデが重くポイントが稼げなかった。でもチャンピオンシップではトップと僅差だった。速さには自身があったので、それをパフォーマンスにつなげられたタイの予選は重要だったと思う。

Question

もてぎ戦の決勝スタート直前、前の2台が接触したとき、どう感じていましたか？

平川：そうですね。タイの予選で一気に流れが変わったと感じました。キャシディ：僕たちはシーズン中盤のすごい戦や鈴鹿戦でも良いパフォーマンスを持っていただけ、ウエイトハンデが重くポイントが稼げなかった。でもチャンピオンシップではトップと僅差だった。速さには自身があったので、それをパフォーマンスにつなげられたタイの予選は重要だったと思う。



Special Interview

GT500、2人の最年少チャンピオン



SUPER GT500 KeePer TOM'S LC500

平川 亮 / ニック・キャシディ



平川 亮 (ひらかわ りょう)
2007年からカートをはじめ、2009年、史上最年少(16歳1ヶ月)でJAF国際限定Aライセンスを取得した。2012年、全日本F3にステップアップ、全15戦中7勝してチャンピオンへ。翌年にはスーパーフォーミュラへステップアップ、初表彰台は2014年第3戦の2位。同年、SUPER GTのGT500クラスでスポット参戦。昨年には両カテゴリーでフル参戦を果たし、GTでは開幕戦と最終戦で優勝を遂げた。



Nick Cassidy (ニック・キャシディ)
2000年からレーシングカートをはじめ、2008年には母国ニュージーランド・フォーミュラ・ファーストで4輪デビューし、シリーズ2位と最優秀新人賞を獲得する。2012、2013年連続でトヨタレーシングシリーズに参戦し、シリーズチャンピオンを手にした。2014年には初参戦したマカオGPで3位を獲得する。一昨年来日して全日本F3にデビュー、チャンピオンを獲得。GT参戦は昨年より2年目となる。

SUPER GT 2017シリーズ、「LEXUS TEAM KeePer TOM'S」は年間チャンピオンの座を獲得。年間チャンピオンへと導いたのは、若干23歳の若手コンビ、平川亮選手とニック・キャシディ選手だ。37号車「Keeper TOM'S LC500」は2人の冷静かつ熱いドライビングは、多くの観客を魅了した。最終戦のツインリンクもてぎでのレースを終えたばかりの2人に直撃インタビュー!